

学術情報の流通基盤の充実について

はじめに

我が国が創造性の高い研究を推進するためには、最新の研究情報を遅滞なく入手するとともに研究成果を効果的に発信する体制の整備が不可欠である。特に、学術情報の電子化が進み、学術研究の形態が歴史的な変革を遂げている現在、学術情報の収集基盤と世界への学術情報の発信力を一層強化することは、科学技術創造立国を掲げる我が国にとって焦眉の課題であり、これにより国際社会において、より大きな貢献を果たすことも可能になる。しかし、我が国の現状は、学術情報の収集と発信の両面において、急速に進行する電子化への対応の遅れが目立ち、欧米、その他諸外国との格差が広がっているという危機的な状況にある。さらに、学術情報の流通基盤を支えるための国際的な連携が求められるという近時の状況においては、国際社会での責任を果たすという意味からも、早急な対応が必要である。

科学技術基本計画においても、研究情報基盤の整備に関して「研究開発情報の収集、発信を通じて、我が国の研究開発の高度化・効率化を図る」とされているとともに、国際的な情報発信力の強化については、「我が国の科学技術活動が国際的に認知され、評価され、その結果、世界一流の人材や最新の情報が我が国に結集するようになるためには、研究成果、研究者、研究機関に関する情報の積極的な海外への発信が重要であり、研究成果の英語での発表を強化するための支援を行うとともに、学協会とも連携しつつ、国際的水準の論文誌の刊行等、情報の組織的な発信を行うための環境を整備する」とされている。

これらのことを踏まえ、日本における研究情報の体系的かつ高度な流通の体制を整備・構築することは喫緊の課題であるとの基本的認識の下に、研究情報の流通基盤を充実する方策を検討するため、平成13年6月に、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会情報科学技術委員会にデジタル研究情報基盤ワーキング・グループを設置し、その方策について検討を進めてきた。本ワーキング・グループにおいては、研究情報の流通基盤の充実方策のうち、特に、学術研究推進のために必要な学術情報の収集方策と、研究成果に関する国際的な情報発信力の強化策について検討を行ったものである。